

あとがき

当句集は「さざなみやつこ」につぐ私の第四句集です。

ここ九年来、心臓弁膜症を患っており、一九九七年七月十四日より一ヶ月間入院しまして手術をしました。目下養生中。その際、病気が病気でしたものですから句集でもつづめておこうと思つてまとめたのが「ぱらりとせ」です。従つて緩選となり八百句ほどありますがご一読下されれば幸いです。

といった書き出しで一九九七年七月に句集を一旦刊行予定でしたが諸般の事情あり現在まで伸び伸びとなつてきました。この間、インターネットの自分のホームページに「ぱらりとせ」を掲載して来ましたが、今回考えるところあつて紙本に収めることとしました。

今、私の関心はインターネットにあつて、句作の発表も句日誌の体裁で、月々備忘録を兼ねて発表してあります。又ネット句会も実施して四年になります。新しい時代のニューメディアとしてのインターネットが「俳句の場」に如何に活用出来るかに最大の関心があります。その一環として、三年かけて俳句検索データベース（六十三万句収録）をネット上に構築し、一般に公開して来ました。

どの方の句であろうと、作句された一句一句にとって最も幸せな途は出来るだけ多くの方に読まれるということ、その公開性、流通性にあります。その点、インターネットは最適です。紙本が制約されるのに比し、ネットは無限の公開性を有します。従つて句集の上木も、私にとってはネットが主、紙本が従ということになります。それでも紙本の佳さは、読みたい時に寝転がって読めるという気軽さにあります。その意味を含めての今回の上木となりました。

句集出版の形式も、かねがね希望して居りました、経済的に安価であるDTP（印刷の前行程を全てパソコンで行う）出版としました。

句集上木に当たりましては、オンデマンド出版の先進企業である（株）デジタルパブリッシングサービスの大塚正志氏に大変お世話になりました。厚く御礼申しあげます。

平成十五年秋